

学習の流れの例

- ① 家の特徴に合わせた雨風の対策を知り、自分の家に適した対策を考える。
例) マンションの高層階に住んでいるので、停電に備え食料を買いだめしておくなど。
- ② p.31を参考に、避難する時の服装や持ち物について考える。
例) 避難所で時間を持て余すことを考え、ゲームや本を持って行く、冬場は寒いので毛布を持って行くなど。
- ③ グループワークや発表をして他の人の意見を聞き、自分の考えを広げたり深めたりする。

学習後の生徒の姿

大雨・台風の被害を防ぐために、自分の家に合わせた対策や自分自身に適した身支度を考えている。

指導のポイント

台風や大雨は、ある程度事前の予測が可能。水害の恐れのあるときは、「明るいうちに」「天候が悪化する前に」早めの避難、「念のため避難」を心がける。暗くなってしまうと視界が悪くなり、明るいうちの避難より危険が多くなる。

あらかじめ避難対策をしておくように指導する。

参照：こうち防災いちばん-NHK-「台風・大雨 避難のポイント」

●停電

停電を経験した人が特に困ったこと。

- 1位 冷蔵庫が止まる
- 2位 照明が使えず、部屋が暗い
- 3位 冷暖房器具が使えない

参照：ベネッセ教育情報サイト「自然災害で停電したら困ることは？」

経験者の声を聞き、この課題をどう解決すればよいのか、その他にもどのようなことに困り、どう解決すればよいのか考えられるようにする。

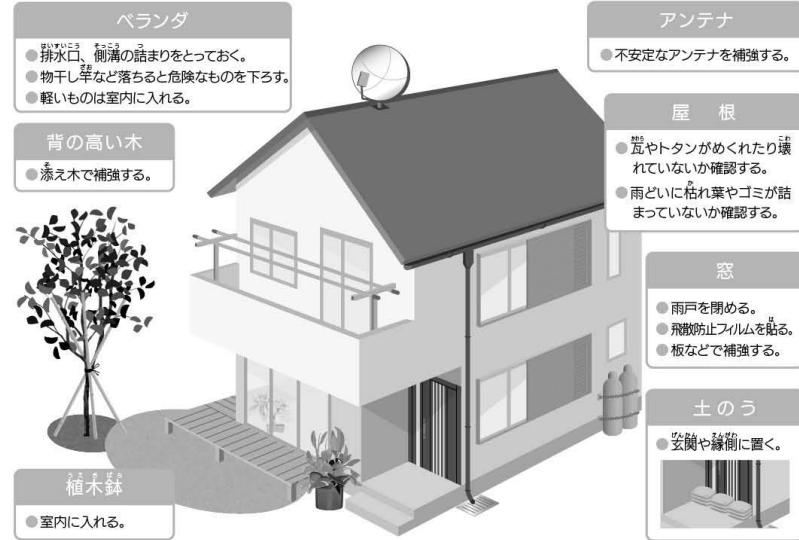
大雨・台風に備える

気象情報などを利用することで、大雨や台風による被害を未然に防いだり、軽減することができます。事前に対策をしておくことが大切です。

めあて 大雨・台風の被害を防ぐために、避難に適した準備ができる。

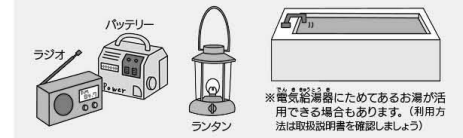
◆家の対策

雨風の影響を受けるとどのような被害が考えられるでしょう。被害を出さないためにできる対策を考えましょう。



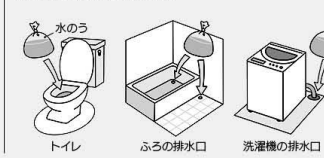
■停電に備える

台風の影響で停電になるおそれがあります。バッテリーや、ランタンなどを準備しておきましょう。正しい情報の収集にはラジオが不可欠です。



■下水の逆流防止

急激な水位の上昇により、下水が逆流することがあります。ビニル袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果があります。



●土のう

浸水発生時には土のうを設置することで、浸水を防ぐことができる。ただし、小規模な水災で水深の浅い初期段階で行うものである。ホームセンターなどで購入もできるが、自治体で無料配布している場合もあるため、自分の住んでいる市区町村に確認するとよい。

●下水の逆流防止

洪水時にはトイレや風呂場、洗濯機の排水口など思わぬところから下水が逆流することがある。ビニル袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果がある。

参照：国土交通省中部地方整備局 第6章「知っておくと役に立つ知識・情報」

◆避難時の身支度

避難中は手をあけておくと、転倒時に手をつくことができて安全です。また、ふだん使う物や服に防水仕様のアイテムを取り入れておくとういでしょう。



『長靴よりスニーカー』 防災マンガ風水害編 ～安全そうな長靴はかえって危ない～



●リュック

避難時の持ち物はリュック一つ背負ってすぐに避難できる量にとどめることが重要。雨の中の避難となるため、防水仕様のリュックが望ましい。

参照：政府広報オンライン「大雨や台風の気象情報に注意して早めに防災対策・避難行動を行いましょう」

避難するための時間的な余裕がある場合、寝袋や毛布といった寝やすくなるものを持って行くのもおすすめ。

参照：江戸川区「避難所に行くなら「非常持ち出し袋」をぜひ持ってきてください！」

●ヘルメット・帽子

タオルを頭にのせ、その上から帽子をかぶると帽子だけをかぶるより頭を保護することができる。

参照：国土交通省 山形河川国道事務所 「知っておこう! いざという時の行動とふだんの心がけ。」

●レインコート

避難時は安全を確保するため傘をさすのは避ける。上下分かれたレインコートが最善。

参照：J-CAST 「長靴と傘はNG! 防災のプロが教える冠水時の正しい避難方とは」

●靴

長靴は一般的にくつヒモがついていないため脱げやすく、転倒してしまう恐れがある。水位があまり高くないときでも、水位の上昇を想定して長靴は避ける。

参照：くらしのなかに防災ニッポン 「水害に長靴はNG? 役立つのは滑らず、脱げない靴!」